

# いたやなぎ 町議会だより

平成27年  
9月定例会

**第7号**  
2015. 11. 13

主な内容

- 4人が一般質問 P2～4
- 決算特別委員会 P6～7
- 研修・視察レポート P8～9

# 町民の声を町政に

## 第15回定例会一般質問

第15回板柳町議会定例会が、9月2日から11日までの日程で開催され、7日に行われた「一般質問」に、4名の議員が登壇しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

### 町税の収納環境整備は



三戸 玲子

**問** 町税の収納率向上のため、若い人たちが働く人たちに便利なコンビニ収納などが必要な時になったと思うが、当町の収納環境の整備状況はどのようなになっているのか。

**答** (成田町長) 収納方法の主なものは銀行や役場での窓口納付や口座振替である。365日24時間納付が可能なコンビニ収納は住民の利便性が図られ、収納率の向上も期待できる有効な手段と考えるので、町では、町民税、固定資産税、軽自動車税及び国民健康保険税について来年度からコンビニ収納を実施するため、作業を進めている。

### 認定こども園の設置は

#### 問

当町に幼稚園がなくなくなった。保育所は働く親にとって朝早くから夜まで子どもを預かれるので、ありがたい施設である。しかし、自分の子どもを個性ある育て方をしたいと考えている親は少なくなく幼稚園を望む。現在、当町で他の幼稚園へ通園している人数は何人か。また、当町の認定こども園の実施についてはどのようなになっているのか。

#### 答

(成田町長) 平成27年8月1日現在、当町で把握している他市町村の幼稚園や認定こども園に通園している子ども的人数は15名である。また、認定こども園の実施については、現在保育所を運営する社会福祉法人において、平成28年度から2箇所の保育所を認定こども園に移行する計画で検討していることを聞いている。



### 教育格差について

#### 問

当町の小中学校児童生徒への就学援助費は、給食や修学旅行の援助など、生活保護を受ける要保護世帯、生活保護世帯に近い状態と町が認定する準要保護世帯に支給されているが、過去3年間の支給額と支給人数の割合はどのくらいか。また、親の所得が子どもの教育に大きく影響を与えていると思っている。所得格差が教育の格差にならないよう町が支援する時代になった。国においても空き家を活用し、退職した教職員が塾の講師になるなどの事業をする自治体に助成を行うので、学校外での町独自の学習支援をどのようにするか。

#### 答

(木村教育長) 給食費、学用品費、修学旅行費等が支給対象である。支給額は、平成24年度は約2054万円、平成25年度は約1839万円、平成26年

度は約1885万円である。人数割合は、要保護者は平成24年度は0.1%、平成25度は0.2%、平成26度は0.2%、準要保護者は平成24年度は22.1%、平成25年度は22.1%、平成26年度は21.6%である。現在、学習支援の取り組みは学校外での町独自のものはないが、国の可能な事業や制度について不明な点も多いため、関係機関と連携をとりながら検討したい。

### 子どもの貧困の解消を

#### 問

日本の子どもの6人に1人が貧困状態にあると言われている。私の願いは各家庭の所得の格差が、教育の格差になり、それが次の世代へつながつて行かないよう町が手立てをしてほしい。

#### 答

(木村教育長) 格差ができるだけなくなるよう学校内外で何ができるのか、もう一度検討していきたい。

### 町の将来像に対しての人口減少対策は



北島 弘美

#### 問

今、この自治体においても少子化の進行を抑制して、若年層を増やす取り組みが求められており、特に子育て世帯には経済的な支援など様々な支援が行われている。また、定住に対しても田舎暮らしや自然志向といった考え方の中で田舎での生活が見直され、田舎に移り住む人たちが全国的に増加している。人口減少対策としての子育て支援対策や定住対策への町の将来像をどのように考えているのか。

#### 答

(成田町長) 子育て支援対策は、子どもの出生を祝福し、保育などのサービスに経済的支援、例え

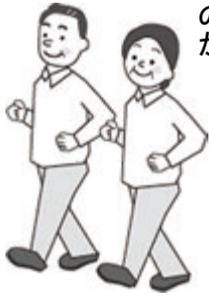
ばこども医療費に係る自己負担分を助成するなど子育て支援を積極的に進めたい。定住対策は、板柳町の魅力を町内外に発信して住んでみたいと思ってもらえる町づくりに取り組みたい。町の宝である子どもたちが未来の町を動かし、また、新たな住民が新しい目で町づくりに参加することで、にぎわいと元気あふれる町が築かれるものと考えている。

農業・商工業発展の取り組みは

**問** 板柳町の基幹産業である農業経済に活気がでると、おのずと商工業経済へ波及して町全体の経済が活気づく。活気づいた町には自然と人が集まり人口減少に歯止めがかかると思っている。農業、商工業発展の取り組みと、将来のめざす成果をどのように考えているのか。

**答** (成田町長)

農業従事者の技術力や経営力を高め、効率的で安定した経営



**問** 昨今の急激な高齢化の進行にももなう介護や医療に係る支出は町財政や町民世帯の家計に大きな重荷になりつつある。健康づくりは町づくりの最大の課題であると思っている。これからの町民の健康づくりをどのように進めていくのか。

町民の健康づくりは

を実現するとともに、付加価値を高めた農産物で板柳町を売り込めるブランド化を確立するなど、農産物の価格向上策や地産地消を推進する。さらに農業が魅力ある産業として発展させるために、新規就農を促す支援や子どもに関心が持てる環境づくりにも取り組む。また、農業、商工業が連携したビジネス支援、商工業の担い手育成や研究開発にも力を入れ取り組みたい。

(成田町長)

**答** 町民の方々が心と体に関する必要な相談や支援をいつでも受けられるような体制を整えたい。また、生涯にわたってスポーツに親しみ、体を動かす習慣が身につくような環境づくりにも取り組むたい。さらに、高齢者の医療や介護、福祉の連携などの充実を図りたい。

お年寄りの福祉の充実

**問** お年寄りは知識や経験が豊富である。仕事のことやボランティアなどさまざまな形態で役割を担ってもらうことができるよう活躍の場をしっかりと確保することが重要であると思っている。お年寄りの方々の福祉の充実について町の将来像をどのように考えているのか。

**答** (成田町長)

お年寄りの方々の豊富な知識や技術は貴重な財産である。さまざまな場面で活躍してもらい、地域の発展

や町経済の活性化につながるものと期待している。このため、お年寄りの皆さんには、いつまでも永く社会参加できる機会と場を提供できるよう今後とも一生懸命努めていきたい。

次世代を担う人づくりは

**問** 若者世代は仕事を求めて大都市へ集まり、このままでは地方の多くの町はなくなっていくという危機感をもっている。次世代の人が幸せに暮らしていくためには、町民の方々の意識改革や郷土愛を育てるなど人づくりが重要であると思っている。次世代を担う人づくりの取り組みと仕掛けについて、どのように進めていくのか。

**答** (成田町長)

地域の教育力向上を図るとともに、子どもたちが将来国内外で活躍できる人材となるよう姉妹都市や友好都市に派遣し、見聞を広める機会を提供したい。また、指導者や育

町長の決意は

成者、支援者などの確保に努めたい。さらに、読書を通じて豊かな心を育むための読書の町活動を一層推進したい。

**問** 今までの質問の5つは、成田町長の選挙での公約である。これに向かっての決意を伺いたい。

**答** (成田町長)

町民の幸せな暮らしを守る町発展のために、町民の声をしっかりと受け止め、町職員と一緒に汗を流し、公約実現のために精一杯努力を重ねたい。

**問** 当町はりんごにこだわりの「まるかじり条例」の制定、「まるかじり塾」の開設、「まるかじりウォーク」を開催している。この「まるかじり」にちなんで、まるかじりウォークの時に、参加者やスタッフなどが一同に集まって、りんごをまるかじりするギネス・ブックに挑戦してはどうか。このことをギネス・ブックに申請して登録になれば世界的に板柳町のりんごがPRされると思うが、町長の考えは。

**答** (成田町長)

大いに町PR、町活性化につながると考える。「りんごの里板柳まるかじりウォーク」今年度の開催まで1カ月ほどになった。ギネス・ブック挑戦には申請手続きなど準備期間が少なく実施はできないが、来年度以降、挑戦可能かどうか関係者と協議しながら検討したい。

「りんごまるかじり」をギネス・ブックに申請しては



今 浩



【今浩一議員】

町の新たな観光ス  
ポットをつくっては

**問** 板柳町の観光ス  
ポットと言え

ばふるさとセンターであるが、このほかに町なかを南北に通る全長約2キロメートルの遊歩道アップルモールを利用したイルミネーション事業、「光の道」、「希望の道」とも言うべき新事業はできないか。一般的にはクリスマスシーズンであるが、県内のねぶた・ねぶたまつりや板柳のりんご灯まつりに合わせて開催したら色んな相乗効果が期待できるのではないかと。さらにイルミネーションの飾り付けを、町民、地域の手で行う観光スポット事業としたら大いに盛り上がるのではないかと。

**答** (成田町長)

近年は各地において町歩きがブームになっており、町のイメージアップにつながる素材が必要であると考え、今後商工会や関係者とも協議しながら調査研究したい。

歩道の除雪助成金の  
支給を

**問** 雪国に住む町民  
にとって、冬の

除雪作業は苦勞がたえない。行政においては、生活道路の確保、通学路、歩道など除雪箇所が多い。その中で通学路になっていく歩道の除雪をきめ細かく行い、児童生徒などの通学の安全を確保するために、地域の方々に除雪の協力をしてもらい、そのため助成金として支給をすることができないか。

**答** (成田町長)

町道や県道の機械除雪の可能な通学路や歩道などの除雪は、町や県それぞれの道路管理者が行っている。また、板柳町では地域との協働による除雪サポート活動モデル事業を実施している。町内会やPTAによる地域除雪活動に燃料費や保険料などの経費に3万円を助成するものである。平成26年度は、13町内会が実施し、25万6千円助成している。質問の協力団体への助

成支給は、今後事業結果を検証しながら考えたい。



成田 陽光

町ホームページの  
充実を

**問**

平成25年度末の普及率は80%を超え、携帯電話、PHSの世界普及率は約95%との発表が出ています。板柳町は早くからホームページの充実に努め、15年前私が板柳町を離れた時、パソコンで板柳町のホームページが見られ、周辺町村に先駆けていたことに私は誇りに思いました。現在の板柳町のホームページ年間アクセス数は過去3年間の年平均で12万5千件を超えており、県内外からの当町への関心の高さがわかる。そして、より良いホー

**答**

(成田町長) 現在のものは、平成21年度にリニューアルしたもので、これにはアンケート集計機能があり、その結果は全体の印象や操作性に關し、普通以上の回答は80%以上である。また、回答された方の要望には、町の紹介やイベントの案内を充実させてほしいとの声が多い。リニューアル後、5年以上経過しているのに満足することなく、操作性の向上や内容の充実に努めたい。

町の情報発信の  
足場となる  
町ホームページ

**問**

イベントの告知、町民の皆様の手続き関係の紹介など、多機能多方面への影響があるので、ホームページは町の情報発信のプラットフォームという部分にあたると思えるが、

**答**

(成田町長) 町ホームページは、町の色々な情報を公開する大変有効な手段と考える。今後ともより一層の充実に努めたい。

## 議会を傍聴しませんか

次の定例会は12月です。

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。本会議は10時に開会します。なお、傍聴できる人数は51人となっております。

<議会日程のお知らせ (予定)>

月日	内 容	
12月 3日(木)	本会議	特別委員会報告等、提案理由の説明
12月 8日(火)	本会議	一般質問
12月 9日(水)	常任委員会	総務産業厚生・福祉建設文教
12月10日(木)	本会議	委員長報告等、質疑、討論、採決

※開催時間はいずれも午前10時です。



※9月定例会(一般質問)に、滝館ひまわり会(会長/北畠徹郎)の14名のみなさんほか、多数の町民の方が傍聴しました。

# 一目でわかる審議結果

第15回定例会9月提出議案

議案	結果
・板柳町教育委員会委員の任命同意(新任・立田久義氏)	全員同意
・津軽広域連合規約の一部変更	全員可決
・弘前地区環境整備事務組合規約の変更	全員可決
・弘前圏域定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定の締結	全員可決
・板柳町個人情報保護条例の一部改正	全員可決
・板柳町手数料徴収条例の一部改正	全員可決
・平成26年度板柳町水道事業会計及び公共下水道事業会計未処分利益剰余金の処分	全員可決
・平成27年度補正予算(板柳町一般会計ほか5件)	全員可決
・平成26年度各会計決算の認定	全員認定
・議員発議「板柳町議会会議規則の一部改正」	全員可決
【報告】平成26年度板柳町健全化判断比率	
【報告】平成26年度資金不足比率	
【報告】一般財団法人板柳町産業振興公社りんごワーク研究所経営状況	

議会の動き (7月～9月)	開催日	会議等名	出席議員	
	【7月】			
	7月6～8日	小中一貫教育実践校視察研修	議員	
	7月 9日	県下町村議会議員研修会	議員	
	〃	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員	
	7月10日	町例月検査(監査)	安田(久)議員	
	7月17日	議員全員協議会(町諸案件等)	安田議長、議員	
	〃	議会運営委員会(8・9月会議等)	葛西委員長、委員	
	〃	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員	
	7月22日	弘前地区環境整備事務組合議会臨時会	成田(肇)議員	
	〃	津軽広域連合議会臨時会	長内議員	
	〃	弘前地区消防事務組合議会臨時会	今議員	
	7月27日	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員	
	7月28～31日	福祉建設文教常任委員会視察研修	佐藤委員長、委員	
	【8月】			
8月3～5日	総務産業厚生常任委員会視察研修	長内委員長、委員		
8月 6日	町例月検査(監査)	安田(久)議員		
〃	西北津軽郡町議会議長会議	安田議長		
8月 7日	町議会だより編集特別委員会	葛西委員長、委員		
8月17日	議員全員協議会(町諸案件等)	安田議長、議員		
8月21日	国民健康保険運営協議会	議員		
8月27日	県町村議会広報研修会	編集特別委員		
8月28日	議会運営委員会(定例会案件)	葛西委員長、委員		
【9月】				
9月 2日	本会議(定例会日程、町長の提案理由等)	安田議長、議員		
9月 4日	町例月検査(監査)	安田(久)議員		
9月 7日	本会議(一般質問・4人)	安田議長、議員		
9月 8日	総務産業厚生常任委員会(所管事務調査)	長内委員長、委員		
〃	福祉建設文教常任委員会(所管事務調査)	佐藤委員長、委員		
9月 9日	決算特別委員会(平成26年度決算審議)	三戸委員長、委員		
9月10日	決算特別委員会(平成26年度決算審議)	三戸委員長、委員		
9月11日	本会議(委員長報告、採決、閉会)	安田議長、議員		

# 決算特別委員会審査

26年度の各会計決算の認定については、議員全員で構成する決算特別委員会（委員長・三戸玲子議員／副委員長・田中達男議員）を設置し、9月9日・10日の2日間にわたり審査しました。全8会計の審査で、数多くの質疑応答がありましたので、その中からいくつかをお知らせします。



委員長／三戸玲子

## 問 葛西清人委員

一般質問の答弁での各町税収納率は高い数値であったが、滞納繰越分は入っているのか。また、来年度導入予定のコンビニ収納システムで、手数料はいくらか。また、メリットは。

## ▼対馬税務課長

現年度分の収納率で、滞納繰越分は入っていない。コンビニ収納の町の手数料は1件につき64円。休日及び夜間でも納付できるため、利便性の向上が図られ、収納率アップも期待できる。税務課の計算で0.5%の収納率アップで約250万円ほどの増収になると見込んでいる。

## 問 葛西清人委員

水道事業会計決算で漏水が多いと感じるが、近隣市町村と比較してどうなのか。

## ▼対馬上下水道課長

漏水に関して近隣市町村の調査をしたことがないので、調査して現状を把握し対応していきたい。

## 問 北畠弘美委員

農業集落排水事業で、残っている地区は。また、完成年度の目標は。

## ▼対馬上下水道課長

残っている地区は、小幡、掛落林、石野、赤田、野中の5地区である。未整備地区については、公共下水道・農業集落排水事業・浄化槽などを併用した、より経済的で効率的な整備方法について、27年度において計画を策定中であり、実施年度も含めて今後進めていく予定である。

## 問 佐藤洋治委員

26年度決算で基金の残高は総額いくらか。

## ▼村上企画財政課長

決算年度末で21億1731万2千円である。

## 問 佐藤洋治委員

基金21億は多いのかわからないのかは分からないが、当町の施設整備計画はどのように考えているのか。

## ▼成田町長

高齢化の進展により医療費や介護保険料が増加することが見込まれるため、インフラ整備については慎重に計画を立ててやっていく。

## 問 成田肇委員

ごみの収集業務委託（決算額3309万1200円）は入札か。契約方法は。

## ▼中村町民環境課長

入札は行っており、町内の板柳協同配送センターと業務契約を行っている。

## 問 長内良蔵委員

狐森・五幾形間の防雪柵の進捗状況について。

## ▼村上建設課長

防雪柵については、国の社会資本整備総合交付金（補助率60%）での事業を検討しており、現在県に追加で事業計画を提出。採択され次第着工となる。

## 総務産業厚生常任委員会

### 議案審議の主なもの

#### ■街路灯設置状況調査委託料

Q 全町内の街路灯が対象で、LEDになるのか。

A 全町20ワット以下の街路灯が対象で約3000基弱である。調査委託は一般社団法人低炭素社会創出促進協議会からの100%補助で実施する。

Q 故障した場合各町内で負担するのか。

A 工事については、メンテナンスを含めた10年間のリース契約で行うため、10年間は町の管理となり、故障しても町内会の負担はない。

#### ■板柳中央病院

Q 町外からの患者はどのくらいか。

A 外来については約25%が町外で、一番多いのは弘前市である。入院については約50%が町外で一番多いのは鶴田町である。

Q 板柳中央病院で人工透析を検討してはどうか。

A 長谷川院長も人工透析に関しては、必要性を感じ個人的に調査を進めている。人工透析には専任医師の他、臨床工学士及び専任の看護師が必要であり、医師の確保及び設備投資等、今後の板柳中央病院のあり方を含め検討していきたい。

Q 板柳中央病院での整形外科の診療体制はどのようになっているのか。

A 火曜日（午後3時から）と金曜日（午後1時半から）の週2回の診療となっている。

Q 整形外科はお年寄りの方も多く利用していると思うので、診療回数を増やして対応する考えはないか。

A 長谷川院長と相談し、医師の増員を含め診療日数の増に向けて対応していきたい。



# 平成26年度 板柳町一般会計決算額

**歳入 60億7,623万円**  
(町民1人当たり約42万円)

**歳出 58億4,017万円**  
(町民1人当たり約40万円)

※町民1人当たりの金額は、平成27年3月31日の人口14,502人で計算しています。

◎26年度各会計決算の詳細については、広報いたやなぎ10月号に掲載されています。

## 問 今浩一委員

国内外観光物産販売強化促進事業費補助金(決算額50万円)の概要は。

▼葛西ふるさとセンター所長

町からの50万円と、りんごワーク50万円の計100万円で、2020年の東京オリンピックを見据えての外国人向けのインターネットのサイトをつくったものである。町のリンゴPR、津軽りんご市場や農家の人達のインタビュ、りんごワークの商品、ふるさとセンター施設の案

内等を掲載。日本語・英語・中国語の3カ国対応となっている。

## 問 今浩一委員

私も議員視察研修へ行くたびにいい勉強になっているが、26年度で職員等、新規に視察研修したものは。

## ▼石澤経済課長

商店街の担い手人材育成事業で秋田県五城目町へ視察研修し、引率で職員が1名参加した。

## ▼佐藤中央病院事務長

当時の町長と院長が、中国の方へ薬草園と先進地医療の視察をした。

## ▼田澤総務課長

プロジェクトで若手職員が、公共施設の整備状況等、秋田市及び秋田市近辺を視察した。

## 問 葛西幸男委員

毎年冬に開催の成人式は、雪が多いと帰省する人も大変なので夏に開催してはどうか。また、りんご灯まつりの会場が駅前になり、旧町内からは寂しいとの声が出ているが、会場を役場前に戻す考えはないか。

## ▼木村教育長

成人式は、二十歳になる人達で実行委員会を組織して開催している。実行委員会の人達の意見を確認して進めていきたい。

## ▼石澤経済課長

りんご灯まつりは実行委員会を組織してその内容を協議している。昨年度から変更した会場については賛否両論ある。今年度もまつり終了後に実行委員会を開催し、来年度も会場は駅前で行うことに決めた。

## 問 成田陽光委員

中学校県・東北・全国大会補助金(決算212万3710円)の内訳は。

## ▼阿部学務課長

陸上競技・ソフトテニス・野球・ソフトボール・バスケットボール・卓球・相撲・剣道・吹奏楽の各部の県大会等出場補助金である。ちなみに昨年度は大変成績が優秀であった。

## 問 成田陽光委員

空き店舗利活用推進事業費補助金(予算200万円)が不用になった要因は。

## ▼石澤経済課長

4月から回覧・ホームページで募集をかけたが、残念ながら活用されなかった。町内限定であったが、町外の方でも活用できるように今年度は要綱を改正し、見直しをしている。



# 福祉建設文教常任委員会

## 議案審議の主なもの

### ■子ども医療費給付金

Q概要について。

Aこれまで未就学児童が対象だった医療費の無料化を、小学校6年生までに拡大するもの。11月の診療分から適用とし、今年度は償還払いでの手続き(いったん支払い、その後申請し還付)、来年度からは現物給付(窓口でカードを提示し無料)での対応と考えている。

Q地方創生費での歳出となつているが、地方創生の5年間の期間限定なのか。その後は、子

A期間限定でなく、子

育て支援事業としての町の財源で継続していきたい。

### ■手数料徴収条例の一部改正

Q概要について。

A10月初めからマイナンバーの通知カードが送付され、28年1月からは個人カードの交付(希望者)が開始される。通知カード及び個人カードは、最初は国の補助で手数料なしで交付されるが、紛失等で再交付する際は、手数料を徴収するため、条例改正するもの。通知カードは1枚につき500円、個人カードは1枚につき800円である。

## ◆陳情

総務産業厚生常任委員会に付託された陳情7件については、いずれも継続審査となりました。

- ・労働基準法及び労働者派遣法の「改正」に反対する意見書採択の陳情
- ・「安全保障関連法案」の廃案を求める意見書採択の陳情
- ・TPP交渉に関する陳情
- ・米価暴落対策の意見書を求める陳情(2件)
- ・外国人の扶養控除制度の見直しを求める意見書の採択を求める陳情
- ・TPP日米協議の合意内容を明らかにし、国会決議に違反する合意の撤回を求める陳情

# 視察・研修レポート

総務産業厚生常任委員会視察研修

石川県津幡町（つばたまち）

平成27年8月3日から2泊3日の日程で、委員5名、随員職員1名で視察研修を行いました。

1日目は、当町りんごワーク商品の取り扱いのある金沢市の大和百貨店香林坊店での金沢市民のニーズとお中元ギフトの販売状況を視察しました。歴史を感じる城下町の老舗百貨店の品揃えは、気品と格調があり、その中で当町りんごワーク商品が販売されていることは大いに自慢できるものと思えました。

2日目は、岐阜県の世界遺産白川郷を視察しました。ここでの視察目的は、世界遺産の合掌造りの保全管理の状況です。白川郷の小さな集落に、観光バスやマイカーが押し寄せ、すばらしい景観を損ねているという評価がありました。そのため今では、4月から11月までの第3

金曜日と、その翌日の土曜日にマイカー規制を実施しています。今後は、観光客のマイカーも毎日通行禁止をしようという機運が高まっているそうです。この白川郷で学んだこと、環境保全と観光振興に生かせるものと思っています。



世界遺産白川郷 合掌造り

最後の3日目は、金沢市に隣接する津幡町で行政視察研修を行いました。人口3万7千人の町で現在も人口が増加しています。ここでの視察研修の目的は税金の収納体制とコンビニ収納です。さらに進んでいく少子高齢化社会の中で増大する公共サービスの需要に対応しながら、地域が自立した行財政運営のできる基盤を強化することとが一層重要となってきており、収納対策に取り組んでいく必要があると考えます。津幡町で、税金のしつかりとした収納体制づくりと収納しやすい環境づくりについて学び、大いに参考となりました。

（委員長 長内 良蔵）

県下町村議会

議会広報研修会

8月27日、ウエディングプラザアラスカにおいて開催された、青森県町村議会広報研修会に、編集委員2名と事務局職員1名が参加しました。

芳野政明氏（議会広報サポート）を講師に、「住民に読まれ、議会活動が伝わる」と題し、議会報の基本と編集技術についての講義と、議会広報クリニックが行われました。



編集委員

板柳町も議会だより第5号のクリニックを受けました。総評は、「ページ割りを考えたい」「見出しに具体性を」「見出しの大きさを写真の掲載の確な配置など、見やすさを意識したい」の3点を指摘されました。

今後も、より町民の皆様には議会だよりを読んでもいただけるよう、編集に役立てたいと感じました。

（委員 成田 陽光）

## 福祉建設文教常任委員会視察研修

## 富山県上市町（かみいちまち）・国会議員要望

平成27年7月28日から3泊4日の日程で、委員5名、随員職員1名で、視察研修及び必要活動を行いました。

1日目は、東日本大震災による原子力発電所事故から、安心・安全なクリーンな発電所が見直されており、そこで日本を代表するダムの中の1つである富山県の黒部ダムを視察しました。



上市町役場

2日目は、当町りんごワーク商品の取り扱いのある富山市の大和百貨店富山店で、富山市民のニーズとお中元ギフトの販売状況を視察しました。富山の自慢できる良品が陳列されている中に、当町りんごワーク商品も陳列され、販売状況が良好となることを期待しました。

この日の午後は富山市から鉄道で片道30分の上市町で行政視察研修を行いました。視察研修の目的は、「コミュニティバス」の運行状況、「給食費支援事業」、「医学生修学資金貸与」、「定住支援対策（町営住宅の視察等）」、「奨学資金の融資を受けた者の利子補給制度」で、いずれの取り組みも、当町にとって大いに参考になりました。上市町は役場庁舎及び消防庁舎

の防災拠点施設や小学校5校及び町立保育所5施設の避難施設など、13施設の省エネ改修及び耐震補強工事を富山県内の自治体で唯一全国に先駆けて実施した町です。役場庁舎を耐震改修するにあたり、社会資本整備事業、国交省補助事業、経産省補助事業等いろいろな補助事業を活用し100%補助で改修したということ、大いに関心をもちました。

3日目は富山県の歴史と文化を求めて高岡市の国宝高岡山瑞龍寺と富山市の北前船廻船問屋森家を視察しました。

最後の4日目は東京永田町の衆議院議員会館で、地元選出の津島淳代議員と直接面談し、「若木川中流部飯田地区・板柳地区の冠水対策について」「地

津島淳代議員へ要望書



方創生に係る財源確保について」の要望活動を行いました。また、首相官邸において首相補佐官木村太郎代議員（現自民党広報本部長）と直接面談し、「地方創生に係る財源確保について」の要望活動を行いました。青森県選出国會議員に直接要望でき、大変有意義でした。

（委員長 佐藤 洋治）

## 全国町村議会

## 議会広報研修会

10月20日、21日の2日間、東京シエーンバツハ・サポー（砂防会館）において開催された、平成27年度町村議会広報研修会に、編集委員5名と事務局職員1名が参加しました。この研修会は充実した「議会だより」の作成を目的としたもので、全国の町村議会より約千名が参加しました。

1日目は小田順子氏（柏崎市広報専門官）と島山千鶴氏（一般財団法人地域活性化センター広報室長）を講師に、「伝わる広報」「読みたくなる広報」をテーマとした研修を受け、2日目は芳野政明氏を講師に、山形県西川町議会だより・鳥取県大山町議会だよりを例に挙げての研修を受けました。

この研修で学んだ事を生かし、多くの町民の皆さんに「伝わる・読みたくなる」議会だよりを目指したいと思います。



編集委員

（副委員長 今 浩二）

## 編集後記

「夢」をかたる

戦後70年、世界の平和に  
進歩なし。

大国は平和を提唱する  
が、抑圧された小さい国は  
卑劣な事件を誘発させ、世  
の中を震撼させる。

まったく嘆かわしい限り。

世の中、人種の色、地の  
境、我立つ前に差別なし。

夢か幻か扶桑の岸に声あ  
げる。

久しぶりに、いい夢を見  
た。

（委員長 葛西 清人）

【発行責任者】

議長 安田 弘

※第8号発行予定は2月12日  
頃です。

議会だよりへのご意見・ご感  
想をお聞かせください。